

I コロニーの役割、求められる機能について

背景・課題

(a)入所機能へのニーズ

➢ コロニーには入所施設を必要とする利用者が多数在籍しているほか、入所待機者も10名程度おり、平均待機年数は3～5年である。

(b)コロニー入所者の推移

➢ コロニーの入所者は、平成18年495人から令和4年324人と、県社会福祉事業団が指定管理を開始した平成18年以降を見ると地域生活への移行や自然減に伴い減少傾向で推移してきている。

(c)強度行動障害等への対応

➢ コロニーには現在、強度行動障害が126名、重度障害の方が46名入所しており、そうした方々の入所継続へのニーズは高いと考えられる。今後、さらなる支援体制や専門人材の育成が必要となる。

(d)入所者の高齢化・重度化への対応

➢ コロニー入所者の平均年齢は62歳と高齢化が進んでおり、90歳を超える入所者も複数名いる。今後、さらなる支援体制や専門人材の育成が必要となる。

(e)医療的ケアへの対応

➢ コロニー入所者でたん吸引や経管栄養など、医療的ケアが必要な方は延べ40名程度おり高齢者に集中している。今後、さらなる支援体制や専門人材の育成が必要となる。

(f)厚生労働省「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書(R5.3.30)」

➢ 障害者支援施設では、地域生活への移行に向けた取組を進めつつ、標準的な支援や建物・設備環境を含めた支援力を一層向上することが必要とされ、地域の支援体制の中で、行動障害の状態が悪化した者を集中的に支援する必要がある場合の受け入れや、緊急の短期入所等が期待されている。

(g)地域生活支援拠点の整備促進

➢ 障害者等の重度化・高度化や「親亡き後」に備えるとともに入所施設や病院からの地域生活への移行を進めるため、重度障害にも対応できる専門性を有し、障害者等やその家族の緊急事態に対応を図る地域生活支援拠点の整備を促進することが求められている。

(h)障害者の災害時対応

➢ 近年の災害において高齢者や障害者が犠牲となっており、災害時に日頃から利用している施設への直接避難を促進するための指定福祉避難所の指定促進や、協定等による福祉避難所の確保が求められている。

1 入所機能について

検討に当たっての視座

<p>1 利用者とその家族の意思を尊重しながら、利用者がより良い環境の下で、必要とする障害福祉サービスを安全にかつ安心して受けられるよう、入所機能を維持することについて</p> <p><背景・課題> (a)入所機能へのニーズ</p>	<p>2 ➢ 地域生活への移行が可能な入所者やそれを希望する入所者について、段階的な地域生活への移行のための仕組みを構築するとともに、事業・取組を進めることについて</p> <p>➢ 入所機能を維持した場合、入所定員は、それらを踏まえた適正規模とすることについて</p> <p><背景・課題> (a)入所機能へのニーズ (b)コロニー入所者の推移</p>	<p>3 ➢ 手厚くきめ細かな支援が必要な利用者に対し、障害特性に応じた対応や、高度・専門的な支援ができる施設とすることについて</p> <p>➢ 施設入所者の地域生活への移行が円滑に行われるよう、例えば生活訓練など、新たな機能を備えた入所施設とすることについて</p> <p><背景・課題> (a)入所機能へのニーズ (b)コロニー入所者の推移 (c)強度行動障害等への対応</p>	<p>4 ➢ 介護的ケアや医療的ケアに対応できる環境整備のほか、医療機関や高齢者施設など外部の社会資源との連携する障害者支援施設とすることについて</p> <p><背景・課題> (a)入所機能へのニーズ (d)入所者の高齢化・重度化への対応</p>
--	---	--	--

2. 緊急時のセーフティネットについて

検討に当たっての視座

<p>5 ➢ 自宅やグループホームなどの支援体制の中で状態が悪化し、対応が困難となった障害者に対する医療的ケアや強度行動障害への対応など、緊急時のセーフティネットとしての役割を担う障害者支援施設とすることについて</p> <p><背景・課題> (c)強度行動障害等への対応 (d)入所者の高齢化・重度化への対応 (e)医療的ケアへの対応</p>	<p>6 ➢ 親が高齢となり施設復帰が必要となるケースや、本人の高齢化や重度化でグループホームでの生活が困難になり、一時的・突発的に他の民間施設では支援が困難になるケースについては、緊急時の全県のセーフティネット拠点としての役割を担っていくことについて</p> <p><背景・課題> (f)厚生労働省「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書(R5.3.30)」</p>
--	---

I コロニーの役割、求められる機能について（つづき）

3. 親亡き後の支援体制の中心的役割について

検討に当たっての視座

- 7 ▶ 親の高齢化や親亡き後でも障害者が自立して生活できるための相談支援や在宅支援サービスの拠点、地域生活のコーディネート機能やフォローアップなど、親亡き後の支援体制の中心的役割を担うことについて

<背景・課題>

- (c)強度行動障害等への対応
- (d)入所者の高齢化・重度化への対応
- (e)医療的ケアへの対応
- (f)厚生労働省「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書(R5.3.30)」
- (g)地域生活支援拠点の整備促進

4. 災害時の避難先としての機能について

検討に当たっての視座

- 8 ▶ 災害時の避難先（福祉避難所）として、必要な機能や役割、運営体制とすることについて

<背景・課題>

- (h)障害者の災害時対応

5. 地域の福祉（地域協同ネットワークの構築）について

検討に当たっての視座

- 9 ▶ 他の障害者支援施設に対して、重度障害や強度行動障害への対応等に必要な知識・ノウハウの提供、地域の福祉活動ができる人材育成を図ることについて
▶ 他の民間施設や障害福祉関係者との連携、情報共有など、多様なコーディネート機能を備えた地域の協同ネットワークを構築していくことについて

<背景・課題>

- (f)厚生労働省「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書(R5.3.30)」

II 地域生活への移行の進め方等について

1. 施設での自立した日常生活・地域社会参加の推進及び地域生活への移行の進め方について

検討に当たっての視座

- 1 0 ▶ 地域生活への移行を進める上では、入所者や家族の意向を把握し、丁寧な説明と相談対応等を通じ、希望する入所者への生活訓練などを適切に行っていくことについて

<背景・課題>

- (f)厚生労働省「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書(R5.3.30)」

- 1 1 ▶ いわゆる「地域移行」を促進しながらも、画一的・強制的に地域生活への移行を推進することなく、社会参加や外部の社会資源を積極的に利用する環境を整えた上で、日常生活や地域社会参加がより可能となる環境をつくることについて

> <背景・課題>

- (a)入所機能へのニーズ

2. 新たな支援策の必要性について

検討に当たっての視座

- 1 2 ▶ 施設入所者の地域生活への移行は、現にコロニーの入所施設を運営している県社会福祉事業団が主体となって行うこと、県は県内の現状と課題把握をすることについて

<背景・課題>

- (f)厚生労働省「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書(R5.3.30)」

- 1 3 ▶ 入所者の地域生活への移行を円滑に進めるためには、他の民間の障害者支援施設やグループホームの協力が欠かせないことから、早期に現状把握とニーズ調査を進め、民間施設との連携体制のあり方を検討することについて

<背景・課題>

- (f)厚生労働省「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書(R5.3.30)」